●エッセイ

# 美少年とは何者か

中島らも

僕はかつて美少年にはまっていたことがある。三十年近くも前の話だ。僕の通っていたのは灘校という進学校で、中学高校一貫して男子ばかりである。女性といえば食堂のおばちゃんだけだ。

百五十人いる一学年の中に二人だけとびきりの美少年がいた。I君とH君である。H君の方は明るくて無邪気な性格だった。

そのために周囲のぎらぎらした雰囲気に気づいていなかったのだろう。ある日教室に入ると同級で身体の大きいSが、H君を開脚姿勢のまま持ち上げて、教壇の上に固定していた。その教壇の前には生徒の列ができていて、H君の開脚部をそれぞれ笑いながらひとなでしていくのだった。

H君は怒り笑いしながら、

「どうして！僕まだ十五なのに」

と叫んでいた。

僕？僕はH君を助けたりしない。どちらかというと教壇の前の列に遠い方だ。残念なこ

とにチャイムが鳴ったのだ。
僕とH君は帰りの電車が一緒でよく話をしたが、美少年というよりはむしろ〝可愛い〟印象のほうが強かった。H君は一種の天才で、古文の時間に内職で「タガログ語」を勉強したりしていた。天才だけれど、可愛いから、架刑にあってもまあ仕方がないな、と僕は冷たく納得したのだった。
もう一人の美少年はI君で、この子はほんとの美少年だった。
ある日I君とふと顔を合わせた瞬間、僕は胸がどきどきした。前の日までは気づかなかったのだ。I君の目は少し脅えた鹿のようだった。曇ったようなまつ毛、薄バラ色の頬、小さな唇。どきどきした。
かといって、I君をどうこうしようという気にはならなかった。むしろ〝どうこう〟の仕方がわからなかったのかもしれない。何といっても僕らはともに十五歳だったから。
そういうことがありまして、僕たちは高校一年生になった。
学園紛争があって、頭髪と服装の自由化がかち取られた（そう、H君もI君もそれまで丸坊主の美少年だったのですね。一休さんタイプ）。
それまで僕はY君と親友づき合いをしていた。Y君はおちゃめで、よく一緒に廊下に立たされたりしていた。ともに校内の掟破りで、アホの中島・スットンキョーのYの雷名がとどろいていた。

ある日他学級の生徒がこの雷名に興味をもって校庭に立ち、もう一人に
「どれが中島でどれがＹだ」
僕はそのときちょうど枯れ枝の先に犬のフンがついたのを持って、Ｙを追いかけまわしているところだった。
それを見たその生徒は、なるほどと得心して、以降我々に関心をもつのをやめたという。
そうやって僕たちはコロコロと遊びながら、中学三年間を過ごした。
一緒にギターを弾いたりもしたし、当時まんががブームだったので、まんがの描き比べもした。Ｙはちばてつやのファンで僕は白土三平ファンだった。この差は音楽の好みにも通じる。Ｙはビートルズファンで、僕はストーンズファンだった。つまり、Ｙは非常に優しい気質の少年だったのだ。
長い夏休みが終わって僕たちはみんな学校に戻ってきた。と同時に僕はＹを見てドキッとなった。Ｙは一か月かそこいらの間に長髪にしていた。級友のみんながわいわいとＹの髪を引っ張って遊んだ。
それまでのＹはどちらかというとビーバーみたいな顔の少年だったが、髪を伸ばすととたんにチャーミングになった。くりくりした目に少し出っ歯で、それがとても愛らしかった。
僕のドキドキはずっと止まらなかった。

僕はYに負けないように髪を伸ばし、二人で噴飯もののバンドを組んだ。決して二人の間に怪しい関係があったわけではない。いえばサイモンとガーファンクル（怪しいか）をめちゃくちゃにヘタにしたようなバンドだった。

怪しいといえばひとつ怪しいことがあった。

学園祭で芝居をやろうということになった。演目は「モモタロー」（笑うんじゃない）。平和な島の鬼たちを、モモタローがガトリングガンで皆殺しにするという心温まる物語だ（よく学校も許可したもんだ。なにせ紛争のあとだったからな）。

Yの役は鬼ヶ島のお姫さまだった。本人は激しくテイコウしたが、衆人一致で決められた。

本番の前の日になって衣装が届いた。

狭い化学部の部室で全員が試着してみた。

僕のモモタローの衣装は実によく似合っていた（そう僕はモモタローだったのだ）。

何人かが手伝ってYのお姫さまができあがった。シンデレラみたいな服でなかなかの美姫であった。

と、全員が静かになった。

部室の全員がYを見つめているのだ。

〝はっはっはっ〟と息を荒げている者もいる。

Yはさすがにこのブキミな雰囲気に気がついて、
「な、何なんだ、お前ら」
その言葉を合図に全員がYに襲いかかった。Yは集団の下でもみくちゃにされてわあわあ騒いでいたが、そのうちに一人がはっと、われにかえったのだろう。
「やめようやめよう。ばからしい」
この一言で全員がばらばらになり、半泣きのYを残して、今の一件は「なかったこと」になった。

男子校における美少年とはそんなようなもので、少女まんがにおけるそれとはかなり違う。が、少女まんがが本質をついている部分も多々ある。
「11人いる!」のフロルは性が未分化の状態にある。両性具有なら「ホトケ様」の性だが、両性未分化というのは違う。少年、少女の性だ。
次に。Y君はなぜ突然部室で襲われるまでの美少年になったのか。
髪の毛である。Yは未分化の上に長髪をまとうことで女性性を獲得したのだ。
フロルの登場シーンを見てほしい。ヘルメットからまず豊かなブロンドがこぼれ出し、フロルの美しい顔が現われる。それを見て全員が女性だと騒ぎ出す。フロルもまた女性性(髪の毛)を冠にして、首から下は少年のままこの宇宙船に乗り込んできたのだ。

「11人いる！」はＳＦのまぎれもない傑作である。傑作以上といってもいいだろう。その傑作以上の部分はすべてフロルの愛らしさによると僕は思う。そしてフロルの魅力は少女まんが、わけても萩尾望都にしかつくりだせない愛らしさだ。僕はフロルの可愛さにひかれて、今回三回も「11人いる！」を読んでしまった。ひょっとすると少年時代の性未分化の時代に僕も戻ってしまったのかもしれない。
　フロルのいる宇宙船なら僕もぜひ乗ってみたい、と思う今日この頃であります。

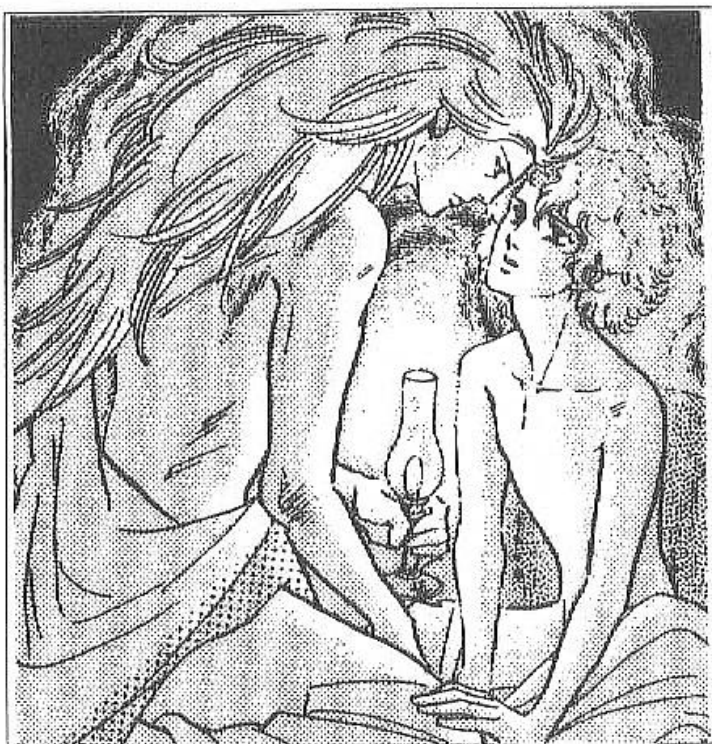
**中島らも**

一九五二年兵庫県生まれ。作家。笑殺軍団リリパット・アーミー主宰。朝日新聞「明るい悩み相談室」の回答者ほか多彩な分野で活躍。『今夜、すべてのバーで』で吉川英治文学新人賞、『ガダラの豚』で日本推理作家協会賞を受賞。近著に『白いメリーさん』『永遠も半ばを過ぎて』などがある。

## Marginal

マージナル

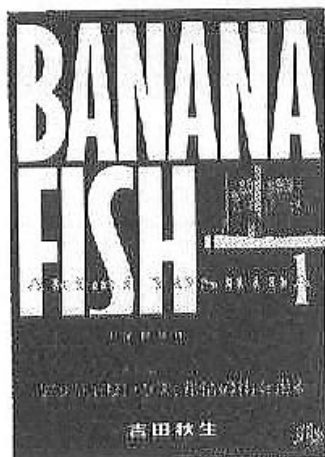
全3巻

西暦2999年、世界でただ一人の母が死んだ。病んだ地球と夢の子供キラをめぐるSFロマン。

エッセイ：①安彦良和②井上雅彦③岡野玲子

## ポーの一族

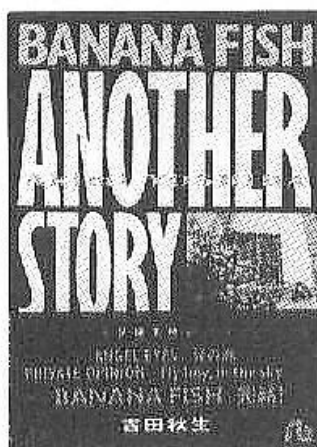
全3巻

赤いバラの咲く村にバンパネラの一族が住む…。時を超え語り継がれる美しき伝説。歴史的傑作！

エッセイ：①小池修一郎②宮部みゆき③有吉玉青

# BANANA FISH

全11巻

アッシュ・リンクス、
バナナフィッシュの謎に迫る！

エッセイ：
①坂本龍一②渡辺えり子
③横森理香④片岡義男
⑤まついなつき
⑥フレデリック・ショット
⑦山本コウタロー⑧山崎浩一
⑨澁谷司⑩吉田真由美⑪村山由佳

# BANANA FISH ANOTHER STORY

全1巻

エッセイ：岡田斗司夫

5つの番外編からなる
ファイナル・ストーリー

収録作品：ANGEL EYES
光の庭
PRIVATE OPINION
うら・BANANA
Fly boy, in the sky

# ラヴァーズ・キス

LOVERS' KISS 全1巻

朋章と里伽子。鎌倉の海辺の青春恋物語

エッセイ：有吉玉青

小学館文庫で読む 吉田秋生

# カリフォルニア物語

## 全4巻

**西から来た少年ヒース、大都会の青春**

同時収録：ホテルカリフォルニアー①巻　夢の園ー④巻　★エッセイ：①タケカワユキヒデ②中島梓×吉田秋生（対談）③大浦みずき④わかぎえふ

# 河よりも長くゆるやかに

## 全1巻

**ニッポンの高校生、トシ、深雪、秋男**
**3人組の、りりしくタフな青春の日々**

エッセイ：夢枕獏

# 吉祥天女

## 全2巻

**天女の末裔・叶小夜子が街に帰ってきた。復讐の時は満ち悲劇が始まる**

エッセイ：①香山リカ②呉智英

# 夢みる頃をすぎても

## 全1巻　エッセイ：真柴あずき

**黄菜子シリーズ他、正々堂々の青春記**

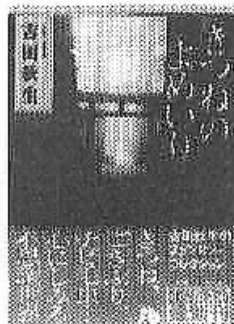
収録作品：楽園のこちらがわ　楽園のまん中で　はるかな天使たちの群れ　夢みる頃をすぎても　ジュリエットの海　解放の呪文　最後の夏

# きつねのよめいり

## 全1巻　エッセイ：山本昌代

**きつねの銀子ちゃんとオジロ君の恋物語**

収録作品：夏の終わりに…　風の歌うたい　きつねのよめいり　十三夜荘奇談　ざしきわらし　のっぽのアリス　ちょっと不思議な下宿人　など全15編

小学館文庫

# 11人いる!〈新編集版〉

1994年12月10日初版第1刷発行（検印廃止）
2000年8月1日　　第20刷発行

著　者 ——— 萩尾望都

発行者 ——— 辻本吉昭

印刷所 ——— 図書印刷株式会社

発行所 ——— 株式会社　小学館
101-8001　東京都千代田区一ツ橋 2-3-1
振替（00180-1-200）
TEL　販売 03-3230-5749
　　　編集 03-3230-5456


ISBN 4-09-191011-4